

製品名: POLR2E ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16356**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	POLR2E POLR2E; DNA-directed RNA polymerases I, II, and III subunit RPABC1; RNA polymerases I, II, and III subunit ABC1; DNA-directed RNA polymerase II 23 kDa polypeptide; DNA-directed RNA polymerase II subunit E; RPB5 homolog; XAP4
別名	
遺伝子 ID	5434.0
SwissProt ID	P19388
免疫原	抗血清はヒト RPAB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

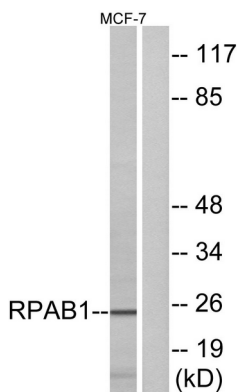
背景

この遺伝子は、真核生物においてメッセンジャー RNA の合成を担うポリメラーゼである RNA ポリメラーゼ II の 5 番目に大きいサブユニットをコードしています。このサブユニットは、他の 2 つの DNA 依存性 RNA ポリメラーゼと共有されており、他のポリメラーゼサブユニットよりも 2 倍モル過剰に存在します。このサブユニットと肝炎ウイルスの転写活性化タンパク質との相互作用が実証されており、転写活性化因子とポリメラーゼとの相互作用はこのサブユニットを介して起こる可能性があることを示唆しています。偽遺伝子は 11 番染色体上に位置しています。この遺伝子には、2 つの異なるアイソフォームをコードする 3 つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2015 年 10 月]機能: DNA 依存性 RNA ポリメラーゼは、4 つのリボヌクレオシド三リン酸を基質として DNA から RNA への転写を触媒します。RNA ポリメラーゼ I、II、III の共通構成要素であり、それぞれリボソーム RNA 前駆体、mRNA 前駆体、多くの機能性ノンコーディング RNA、そして 5S rRNA や tRNA などの低分子 RNA を合成します。Pol II は、基本的な RNA ポリメラーゼ II 転写機構の中心的な構成要素です。Pol は、互いに相対的に移動する可動性エレメントで構成されています。Pol II において、POLR2E/RPB5 は中央の大きな溝を囲む下顎の一部であり、入ってくる DNA 鋳型を捕捉すると考えられています。このプロセスにおける主要な構成要素であると思われる。PTM:N 末端がブロックされている。類似性:古細菌 rpoH/真核生物 RPB5 RNA ポリメラーゼサブユニットファミリーに属する。サブユニット:RNA ポリメラーゼ I (Pol I)、RNA ポリメラーゼ II (Pol II)、RNA ポリメラーゼ III (Pol III)複合体の構成要素で、それぞれ少なくとも 13、12、17 個のサブユニットから構成される (類似性による)。RNA ポリメラーゼ II では、このサブユニットは他のサブユニットの 2 倍モル過剰に存在する。RMP と相互作用する。HBV タンパク質 X と相互作用する。、

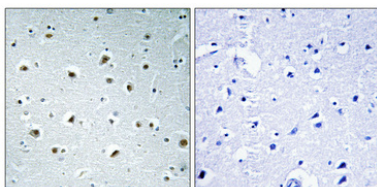
研究分野

プリン代謝、ピリミジン代謝、RNA ポリメラーゼ、ハンチントン病、

画像データ



RPAB1 抗体を用いた MCF-7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。